

【対象事業活動の実績に関する評価】

令和4年度 事業経営評価

団体名	(一財) 大阪市文化財協会	所管所属名	経游戦略局
-----	---------------	-------	-------

中期目標	(1) 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容
	当該外郭団体に委託することを通じて、本市の区域内の埋蔵文化財を精確に調査して適切に保存し、調査結果や保存を行った成果を活用して、学術・文化・教育の向上と発展に寄与するとともに、蓄積された調査研究の成果・資料・技術を継承すること
	(2) 中期目標期間

令和2年4月1日から令和5年3月31日までの3年間

(3) 中期目標の期間終了時において、(1)の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態

中期目標の期間、本市が必要と認める市内の埋蔵文化財の調査及び保存、その成果を活用した学術・文化・教育の向上及び発展並びに蓄積された調査研究の成果・資料・技術の継承が当該外郭団体によって着実に行われている状態

●最終年度【中期目標の期間を通じた評価】

中期目標の期間を通じた評価 外郭団体の自己評価 市評価	最終目標達成状況	中期計画に定めた指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価
	ア	共同研究員制度の構築と運用に関する令和4年度の最終目標は8分野12人であったが、結果として8分野13人の登録を達成し、最終目標を達成した。さらに、発掘調査現場や科学研究費助成事業で学術的なアドバイスを受けて、調査地における遺跡・遺構の評価や研究方針の策定など、実地の研究でも成果を上げることができた。
ア：達成 イ：達成見込み（計画期間中） ウ：未達成		中期計画に定めた指標及び目標に基づく評価を踏まえた本市の総合的な評価
中期目標期間の初年度となる令和2年度はコロナ禍の影響により共同研究員登録依頼に至らなかつたが、令和3年度においては、コロナ禍による活動制限を考慮しながら、6分野9人の登録を完了し年度目標を達成した。最終年度となる令和4年度においても、新型コロナの感染状況を注視しながら取組を進め、結果的に最終目標である8分野12人（実績としては13人）の共同研究員の登録を完了することができた。また、共同研究員との研究活動を通じた調査結果や保存を行った成果を活用して、学術・文化・教育の向上と発展にも寄与し、研究を深化させ研究成果の公表及び競争的研究資金の獲得へ向け、適正な共同研究員制度の運用に取り組んだことは評価できる。		
助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪市外郭団体等への関与及び監理に関する条例第7条第5項】（※必要な場合のみ）		

●最終年度【中期目標の期間を通じた評価】

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一 1 (※分野ごとの評価)

団体が中期計画期間中に行行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

中期計画

様々な対象を取り扱う埋蔵文化財調査において求められる多種多様な専門分野の研究者を事業に携わる研究者として登録し共同で調査研究を行う共同研究員制度を構築し、運用すること

中期計画達成状況	指標I 専門分野数									
		R2	中期計画進捗率	R3	中期計画進捗率	R4【最終】	中期計画進捗率			
	目標値	4分野	50.0%	6分野	75.0%	8分野	100.0%			
	実績値	0分野	0.0%	6分野	75.0%	8分野	100.0%			
	中期計画期間における具体的な取組内容（実績）									
昨年度までに6分野（考古学4領域・古代史・動物学・形質人類学・植物学・堆積（地質）学）の研究者の登録手続きを完了した。当初目標からは考古学（旧石器時代）・建築史・測量学が欠けていたため、審査委員会を経て各分野の候補者を選定し、また、既に登録済の堆積（地質）学で専門領域の細目が異なる研究者の推薦も受け、より充実した共同研究の成果が見込まれることから候補者に追加し、8月までに個人及び所属機関への折衝を行って9月現在で登録を得た。その結果、登録分野は目標の全8分野（考古学5領域・古代史・動物学・形質人類学・植物学・堆積学2領域・建築史・測量学）となり、目標を達成した。										
外郭団体の自己評価	指標II 登録者数									
		R2	中期計画進捗率	R3	中期計画進捗率	R4【最終】	中期計画進捗率			
	目標値	6人	50.0%	9人	75.0%	12人	100.0%			
	実績値	0人	0.0%	9人	75.0%	13人	108.3%			
	中期計画期間における具体的な取組内容（実績）									
昨年度までに考古学4人を含む6分野（考古学4領域・古代史・動物学・形質人類学・植物学・堆積（地質）学）9人の登録手続きを完了した。今年度は、これまでに登録済の2分野（考古学・堆積（地質）学）でも専門領域の細目が異なる研究者を各1人新たに追加するとともに、建築史・測量学でも各1人を登録した。その結果、目標であった8分野（考古学5領域・古代史・動物学・形質人類学・植物学・堆積学2領域・建築史・測量学）12人に対して目標を1人超える8分野13人となり、目標を達成した。										

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	A	A: 指標全部達成 B: 指標全部未達成 C: 指標一部未達成	中期計画の目標達成状況 【中期計画期間】	A	A: 達成 イ: 達成見込み(計画期間中) ウ: 未達成
	中期計画期間の達成状況について					
市の方針で当協会の解散が予定されており、新たな職員の採用が不可能な現在、所属する学芸員の過減に応じてカバーできる専門領域も縮小している。その中で共同研究員制度については、当初目標の分野・登録者数を達成したことで研究機関としての活動環境を維持し得たといえるものである。いまだコロナ禍の終息が見えない状況であり、可能な方法で今後も共同研究員制度の充実と活性化を図っていく。						

市の審査	中期計画の目標達成状況 【中期計画期間】	A	ア: 達成 イ: 達成見込み(計画期間中) ウ: 未達成	「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性	A	A: 有効だった B: 有効ではなかった						
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果											
	令和2年度に共同研究員制度の要項を整備し、令和3年度から4年度にかけてコロナ禍にありながらも8分野13人の共同研究員を登録し、中期計画における目標を達成している。今後、平成25年8月の府市統合本部会議において整理された方向性に基づき当該法人の整理を進める上でも、当該法人が蓄積してきた市内の埋蔵文化財の調査及び保存に関する知識・ノウハウを有する人材を安定的かつ継続的に確保していくことは重要であり、達成したとする団体の自己評価は妥当である。											
「中期目標」達成の視点からみた審査結果												
令和2年度はコロナ禍の影響を受け、研究活動も手探りという状況だったため、共同研究員制度の運用の実現性を判断するのに時間を要したが、令和3年度以降はコロナ禍の影響を考慮しながら、中期計画に定める目標である8分野12人を上回る8分野13人の登録を達成している。 市内埋蔵文化財の調査等は滞りなく団体によって実施されたとともに、共同研究員との研究活動を通じた調査結果や保存を行った成果を活用して、学術・文化・教育の向上と発展にも寄与し、研究を深化させ研究成果の公表及び競争的研究資金の獲得へ向け、適正な共同研究員制度の運用に取り組んだことは評価できるものである。												